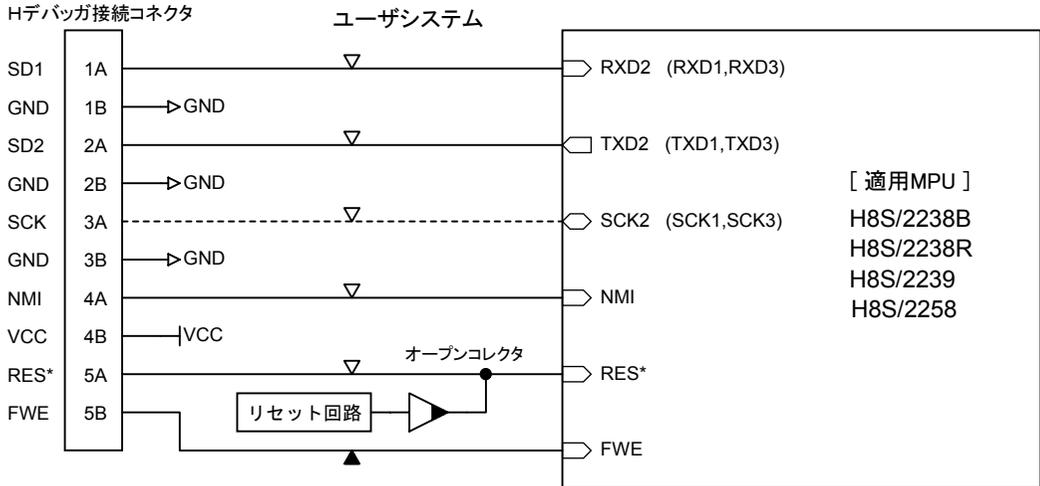


【 接続例13 】 H8S/2238B,2238R,2239,2258の場合 (H8S/2200シリーズ)



- 1) ▽印はプルアップ抵抗です、▲印はプルダウン抵抗です。抵抗値は4.7K~22Kの範囲を推奨します。
- 2) RXD2,TXD2,SCK2はモニタ組込後であればCPU設定によりSCI1又はSCI3のシリアル信号に変更して使用できます。
- 3) リセット回路の遅延時間は、200mSEC以下になる様ハード設計して下さい。
- 4) CPU動作モード(ブート・実動作)設定回路は、ユーザ(ターゲット)側で用意して下さい。
- 5) CPU設定でターゲットI/Fを調歩同期/クロック同期の選択ができます。
 調歩同期側に選択した場合は、SCKを開放にして下さい。